

「国際交流推進委員会」

1. 構成員

1) 委員

委員長：上別府圭子（東京大学）

委員：池田真理（東京女子医科大学）、上野里絵（東京医科大学）、
小川純子（淑徳大学）、キタ幸子（東京大学）、グレッグ美鈴（神戸市看護大学）、
谷口初美（九州大学）、深堀浩樹（慶應義塾大学）

2) 協力者

なし

2. 趣旨

本委員会の趣旨は、関連する国際組織と連携を取りながら、日本国内の看護系大学のグローバル化を促進・支援することである。具体的な活動目標は以下である。

- 1) 看護高等教育における国際活動・国際交流の積極的な推進
- 2) 第22回 EAFONS への Executive Committee Members の参加と連携の促進
- 3) 日本からの国際学会の参加促進に向けた発表・指導の支援

3. 活動経過

1) The East Asia Forum of Nursing Scholar (EAFONS) Executive Committee Meeting への参加

2019年1月17日・18日に開催された第22回 EAFONS の Executive Committee Meeting に国際交流推進委員長の上別府圭子、委員の池田真理が出席した。前回会議から説明を求められていた World Academy of Nursing Science (WANS) と EAFONS の関係経緯について委員の池田真理が説明した。学会プログラムにおいては、Plenary Session II（テーマ：Women's Health Research: Way Forward）で池田真理（委員）が講演し、Plenary Session I・II・IIIにおいて東京大学の山本則子が座長を務めた。Research Methods Symposium II（テーマ：Scientific Inquiry: Why Qualitative Methods Matter?）及び Panel Discussion（テーマ：What Makes Mentorship Different?）で東京大学の山本則子が講演し、池田真理は Panel Discussion の座長を務めた。

第22回 EAFONS での Oral Presentation Award、Poster Presentation Award、それぞれ3名で合計6名の受賞者の内、3名が日本の大学（大阪大学・千葉大学・東北大学）からの発表者であった。

2) NINR 元ディレクター Dr. Patricia Grady 講演会の実施

2019年3月24日（日）10時～12時、東京医科大学第一看護学科棟102講義室で、NINR (National Institute of Nursing) の元ディレクターである Dr. Patricia Grady をお招きし、講演会を開催した。この講演会では、日本の看護系大学における国際共同研究等を含む質の高い看護学研究・国際活動の活性化に向けた体制構築に関する示唆を得ることを目的に、NINR の歴史や組織体制、いかにして米国の看護学研究を牽引してきたかお話しいただいた。当講演会は医学書院が協賛となり開催した。講演会の概要は、下記の通りである：

【講師】 Dr. Patricia Grady (元 NINR ディレクター)

【講演テーマ】「Example of a National Research Model」

当日は 42 名の参加者があり、日本の看護系大学における研究の更なる活発化・発展に向けたシステム作りや施策、若手研究者の育成等に関する活発な意見交換が行われた。

3) 国際学会発表を促進・支援する研修会の実施

2019 年 3 月 24 日 (日) 13 時～17 時 30 分、東京医科大学第一看護学科棟 102 講義室で、JANPU 国際交流推進委員会企画研修会「スマートな国際学会発表を目指して 2」を開催した。この研修会では、国際学会での学生・教員の演題発表をエンパワーすること、具体的なノウハウを学ぶことを目的とした。実際に国際学会で口演・ポスター発表をされた大学院生とその指導教員にご登壇頂き、学生は発表を再現した上でこの発表のための準備や発表してみたの感想を発表した。指導教員は、どのように学生を指導したか、国際交流・学会参加に関する全般的な教育方針や具体的な工夫を紹介してもらった。研修会での情報共有・ディスカッションを基に、本研修会に参加した教員が自校で同様の取り組みを行いやすくすることをねらった。プログラムの構成は、下記の通りである：

【Oral presentation 1】

室矢 明日香 ～東京女子医科大学における経験～

【Oral presentation 1 の指導について】

小川 久貴子 ～東京女子医科大学における経験～

【Oral presentation 2】

小玉 淑巨 ～東京医科歯科大学における経験～

【Oral presentation 2 の指導について】

深堀 浩樹 ～東京医科歯科大学における経験～

【Poster presentation 1】

高橋 好江 ～東京大学における経験～

【Poster presentation 1 の指導について】

武村 雪絵 ～東京大学における経験～

【Poster presentation 2】

宍戸 恵理 ～聖路加国際大学における経験～

【Poster presentation 2 の指導について】

堀内 成子 ～聖路加国際大学における経験～

当日は 58 名の参加者があり、学生の国際学会発表を促すシステム作り (校正費・渡航費の補助等) や質が保証された国際学会の選定方法、研究プロジェクトにおける国際学会発表の位置づけ等に関する活発なディスカッションを行った。

4. 今後の課題

本年度は米国の看護学研究を牽引してきた著名な研究者の講演会や国際学会発表を促す研修会等を行い、看護系大学のグローバル化に貢献できたと考えている。今後の課題として、看護系大学における海外の大学との国際交流及び連携の推進・活性化を目的とした研修会を開催する予定である。

5. 資料

なし